

ふりがな さいとう まこと

氏 名 齊藤 誠

1. 学歴

1983 年 3 月 京都大学経済学部卒業
1988 年 9 月 マサチューセッツ工科大学経済学部博士課程入学
1992 年 6 月 同校卒業, Ph. D. in economics 取得

2. 職歴・研究歴

1983 年 4 月 - 1987 年 8 月 株式会社住友信託銀行勤務
1987 年 9 月 - 1988 年 8 月 スタンフォード大学経済学部客員研究員
1992 年 7 月 - 1995 年 6 月 ブリティッシュ・コロンビア大学経済学部助教授
1995 年 7 月 - 1998 年 3 月 京都大学経済学部助教授
1998 年 4 月 - 2001 年 3 月 大阪大学大学院経済学研究科助教授
2001 年 4 月 - 一橋大学大学院経済学研究科教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

金融ファイナンス A, マクロ経済学

(b) 大学院

金融経済論 I, 上級マクロ経済学

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部・大学院の講義については, テキストや論文を徹底的に読む, きっちりとしたノートを作る, 計算問題をどんどん解いていく, 授業中やオフィスアワーを通じてできるだけ議論をするという演習的な側面を重視していきたい。

学部ゼミについては, 資産価格, 企業金融, ファイナンス理論に関係するトピックスについて自らでロジカルに考える習慣をつけることを目指す。英語と数学を大切にしていきたい。

大学院ゼミナールについては, マクロ経済理論やファイナンス理論に厳密に依拠した実証研究を指導していく。「出版を前提として論文を書く」という側面を重視する。

4. 主な研究テーマ

- (1) 不完備市場下の資産価格形成
- (2) 流動性と資産価格形成
- (3) マーケットマイクロストラクチャー

(4) マクロ経済学

(5) 金融政策

(6) エネルギー, 自然災害リスク, 排出権などに関する新しいタイプの金融取引

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『経済政策とマクロ経済学』, 岩本康志・大竹文雄・齊藤誠・二神孝一, 252 頁, 1999 年 10 月, 日本経済新聞社。

『金融技術の考え方・使い方: リスクと流動性の経済学』, 齊藤誠, 389 頁, 2000 年 7 月, 有斐閣。

『金融機能と規制の経済学』, 岩本康志・齊藤誠・前多康男・渡辺努, 226 頁, 2001 年 10 月, 東洋経済新報社。

『日本の金融再生戦略: 新たなシステムの構築をどうするか』, 齊藤誠編著, 3-50 頁, 2002 年 5 月, 中央経済社。

『先を見よ, 今を生きよ: 市場と政策の経済学』, 齊藤誠, 292 頁, 2002 年 6 月, 日本評論社。

『流動性の経済学: 金融市場への新たな視点』, 齊藤誠・柳川範之編著, 127-156 頁, 2002 年 6 月, 東洋経済新報社。

『新しいマクロ経済学 新版』, 齊藤誠, 411 頁, 2006 年 10 月, 初版, 273 頁, 1996 年 10 月, 有斐閣。

『成長信仰の桎梏: 消費重視のマクロ経済学』, 齊藤誠, 228 頁, 2006 年 12 月, 勁草書房。

『資産価格とマクロ経済』, 齊藤誠, 362 頁, 2007 年 6 月, 日本経済新聞出版社。

(b) 論文(査読つき論文には*)

* "A Study of Household Investment Patterns in Japan: An Application of Generalized Tobit Model," Takeshi Amemiya, Makoto Saito and Keiko Shimono, *The Economic Studies Quarterly* 44-1 (1993), pp. 13-28, and in Takeshi Amemiya, *Studies in Econometric Theory. The Collected Essays of Takeshi Amemiya*, Economists of the Twentieth Century Series, Aldershot, U.K.: Elgar; distributed in the U.S. by Ashgate, Brookfield, Vt., 1994, pp. 454-469.

"Development of Modern Macroeconomics: An Expository Note," Makoto Saito, *The Kyoto University Economic Review* LXV (1995), pp. 43-52.

* 「人口高齢化と消費の不平等度」, 大竹文雄・齊藤誠, 『日本経済研究』33-11(1996), 11-35 頁。

* 「フォワード・プレミアム・パズル: 展望」, 福田祐一・齊藤誠, 『現代ファイナンス』1(1997), 5-18 頁, 巻頭論文。

* "Growth and Risk Sharing with Incomplete International Assets Markets," Michael Devereux and Makoto Saito, *Journal of International Economics* 42 (1997), pp. 453-481.

* "A Note on Ergodic Distributions in Two-Agent Economies," Makoto Saito, *Journal of Mathematical Economics* 27 (1997), pp. 133-141 (the lead article of this issue).

「人口高齢化と消費の不平等度」, 大竹文雄・齊藤誠, 八田達夫・八代尚宏編『社会保険改革: 年金, 介護, 医療, 雇用保険の再設計』1998 年 5 月, 日本経済新聞社。

* "A Simple Model of Incomplete Insurance: The Case of Permanent Shocks," Makoto Saito, *Journal of Economic Dynamics and Control* 22 (1998), pp. 763-777.

* "Incomplete Markets and Non-expected Utility," Makoto Saito, *Japanese Economic Review* 49 (1998), pp. 271-283.

* 「消費の世代間分配に関する実証研究」, 齊藤誠, 『日本経済研究』36-7(1998), 27-49 頁。

* "Estimating the Effects of Monetary Shocks: An Evaluation of Different Approaches," Paul Beaudry and Makoto

Saito, *Journal of Monetary Economics* 42 (1998), pp. 241–260.

* “Population Aging and Consumption Inequality in Japan,” Fumio Ohtake and Makoto Saito, *The Review of Income and Wealth* 44 (1998), pp. 361–381.

* “Asset Pricing in Japan: A Communication,” Katsura Nakano and Makoto Saito, *Journal of the Japanese and International Economies* 12 (1998), pp. 151–166.

“On Numerical Calculation Programs of American-type Options Using GAUSS Codes,” Kenji Miyazaki and Makoto Saito, *Osaka Economic Papers* 48 (1998), pp. 25–54.

* “On the Market Risk Involved in the Public Financial System in Japan: A Theoretical and Numerical Investigation,” Kenji Miyazaki and Makoto Saito, *Journal of Banking and Finance* 23 (1999), pp. 1243–1259.

「地方自治体の長期財政収支についてのメモ: 実際的な計測」, 齊藤誠, 『大阪大学経済学』3(1999), 233–240 頁。

* 「所得不平等化の背景とその政策的含意: 年齢階層内効果, 年齢階層間効果, 人口高齢化効果」, 大竹文雄・齊藤誠, 『季刊社会保障研究』35(1999), 65–76 頁。

* “Dynamic Allocation and Pricing in Incomplete Markets,” Makoto Saito, *Monetary and Economic Studies* 17 (1999), pp. 45–75.

「高度化した資本市場におけるリスクと流動性: マーケット・メーカーとアービトラージャーの役割」, 齊藤誠, 『フィナンシャル・レビュー』51(1999), 5–27 頁。

「金利期間構造の将来インフレーションに関する情報含意について」, 福田祐一・齊藤誠, 小佐野広・本多佑三編『現代の金融と政策』2000 年 1 月, 日本評論社。

「フォワードディスカウントパズルと流動性効果」, 齊藤誠・福田祐一, 小佐野広・本多佑三編『現代の金融と政策』2000 年 1 月, 日本評論社。

「昨今の金融政策について」, 齊藤誠, 『エコノミクス』2000 年春号, 124–140 頁。

「自然災害リスク・マネジメントにおける市場システムと公的システム」, 齊藤誠, 『エコノミクス』2000 年秋号, 148–160 頁。

「オプション取引データに基づいた状態価格密度の推計について: 大阪証券取引所の事例」, 齊藤誠・高木真吾, 『インベストメント』2000 年第 53 巻第 2 号, 21–37 頁。

* 「世帯構成員の長期療養に起因する経済厚生損失について: 要介護者と寝たきりの経済的コスト」, 岩本康志・小原美紀・齊藤誠, 『季刊社会保障研究』36(2001), 547–560 頁。

* “Financial Crises as the Failure of Arbitrage: Implications for Monetary Policy,” Makoto Saito and Shigenori Shiratsuka, Bank of Japan, *Monetary and Economic Studies* 19 (2001), pp. 239–270.

* 「日経平均株価の銘柄入れ替えが個別銘柄の流動性に与えた影響について: 覚え書き」, 齊藤誠・大西雅彦, 『現代ファイナンス』9(2001), 67–82 頁。

「日本の金融政策」, 齊藤誠, 『経済研究』52(2001), 97–106 頁。

「世帯構成員の長期療養に起因する経済厚生損失について: 要介護者と寝たきりの経済的コスト」, 岩本康志・小原美紀・齊藤誠, 岩本康志編著『社会福祉と家族の経済学』2001 年 12 月, 東洋経済新報社。

「情報技術の進展と株式取引の革新」, 齊藤誠, 『エコノミクス』2001 年春号, 66–77 頁。

「財政政策と金融政策の新たな役割分担について」, 齊藤誠, 貝塚啓明編『財政政策の効果と効率性: サステナビリティを求めて』2001 年 7 月, 東洋経済新報社。

「不良債権処理と銀行経営のあり方」, 齊藤誠, 『エコノミクス』2001 年秋号, 32–40 頁。

「資産価格形成における流動性要因: 覚え書き」, 齊藤誠, 『一橋論叢』2001 年 10 月号, 48–61 頁。

* “An Empirical Investigation of Intergenerational Consumption Distribution: A Comparison among Japan, the US,

and the UK," Makoto Saito, in Seiritsu Ogura, Toshiaki Tachibanaki and David A. Wise eds., *Aging Issues in the United States and Japan* (2001), pp. 135–167, Chicago: The University of Chicago Press.

「流動性需要と資産価格形成：わが国の定期的決済慣行における検証」, 齊藤誠・白塚重典・柳川範之・渡辺努, 齊藤誠・柳川範之編著『流動性の経済学：金融市場への新たな視点』2002 年 6 月, 東洋経済新報社。

「国債の価格形成とコンビーニエンス：1990 年代後半の日本国債のケース」, 福田祐一・齊藤誠・高木真吾, 齊藤誠・柳川範之編著『流動性の経済学：金融市場への新たな視点』2002 年 6 月, 東洋経済新報社。

「リスク移転機能から見た日本の金融システム」, 齊藤誠, 齊藤誠編著『日本の金融再生戦略：新たなシステムの構築をどうするか』2002 年 5 月, 中央経済社。

「自然災害リスクと地価形成：リスク・シグナルとしての地価」, 齊藤誠, 西村清彦編著『不動産市場の経済分析：情報・税制・都市計画と地価』2002 年 6 月, 日本経済新聞社。

* 「地震危険度と家賃：耐震対策のための政策的インプリケーション」, 山鹿久木・中川雅之・齊藤誠, 『日本経済研究』第 46 号(2002), 1–21 頁。

* 「地震危険度と地価形成：東京都の事例」, 山鹿久木・中川雅之・齊藤誠, 『応用地域学研究』第 7 号(2002), 51–62 頁。

* "Forward Discount Puzzle and Liquidity Effects: Some Evidence from Exchange Rates among US, Canada, and Japan," Yuichi Fukuda and Makoto Saito, *Journal of Money, Credit, and Banking* 34 (2002), pp. 1014–1033.

* "A Test of the Full Insurance Hypothesis: The Case of Japan," Miki Kohara, Fumio Ohtake and Makoto Saito, *Journal of the Japanese and International Economies* 16 (2002), pp. 335–352.

* 「市場メカニズムを通じた防災対策について」, 山鹿久木・中川雅之・齊藤誠, 『住宅土地経済』第 49 号(2003) 24–32 頁。

* 「予備的動機と待ちオプション：わが国のマクロ家計貯蓄データによる検証」, 齊藤誠・白塚重典, 『金融研究』第 22 巻第 3 号(2003) 1–22 頁。

* "Precautionary motives versus waiting options: Evidence from aggregate household saving in Japan," Makoto Saito and Shigeru Shiratsuka, *Monetary and Economic Studies* 21 (2003), pp. 1–20.

* 「大規模マクロショック後の流動性回復メカニズム：米国同時多発テロ直後の東京証券取引所」, 井坂直人・齊藤誠, 『現代ファイナンス』14, 2003 年, 79–96 頁。

* "On alternatives to aggregate demand policies to revitalize the Japanese Economy," Kiyohiko G. Nishimura and Makoto Saito, *Asian Economic Papers* 2: 3 (2004), pp. 87–126.

* "Preference for early resolution and commitment," Kenji Miyazaki and Makoto Saito, *Finance Research Letters* 1: 2 (2004), pp. 113–118.

「国債発行残高急増と金利リスク：国債管理政策における物価連動国債の可能性」, 齊藤誠・竹田陽介, 貝塚啓明・財務省財務総合政策研究所編著『財政赤字と日本経済』, 77–100 頁, 2005 年 4 月, 有斐閣。

「リスクファイナンスの役割：災害リスクマネジメントにおける市場システムと防災政策」, 齊藤誠, 多田納裕一・高木朗義編著『防災の経済分析』, 88–106 頁, 2005 年 6 月, 勁草書房。

「ファイナンス・パズルへの誘い：フォワード・ディスカウント・パズルと政策ショック」, 齊藤誠・福田祐一, 大竹文雄編著『応用経済学への誘い』, 137–158 頁, 2005 年 10 月, 日本評論社。

* 「企業内キャッシュフローと企業価値：日本の株式消却に関する実証研究を通じての考察」, 広瀬純夫・柳川範之・齊藤誠, 『経済研究』2005 年, 30–41 頁。

* "A note on the robustness of the Tobin effect in incomplete markets," Makoto Saito and Yosuke Takeda, *Macroeconomic Dynamics* 10: 1 (2006), pp. 131–143.

- * "What caused fixed investment to stagnate during the 1990s in Japan?: Evidence from panel data of listed companies," Keiichi Hori, Makoto Saito and Koichi Ando, *Japanese Economic Review* 57-2 (2006), pp. 283-306.
- "On effects of the Hyogo earthquake on household consumption: A note," Miki Kohara, Fumio Ohtake and Makoto Saito, *Hitotsubashi Journal of Economics* 47: 2 (2006), pp. 219-228.
- 「1990 年代の設備投資の停滞について: 上場企業の財務データからの考察」, 堀敬一, 齊藤誠, 安藤浩一, 林文夫 編著『経済制度の実証分析と設計』全 3 巻, 第 2 巻『金融の機能不全』, 3-34 頁, 2007 年 1 月, 勁草書房。
- 「ABS 発行市場における劣後引受の役割」, 井坂直人, 大橋和彦, 齊藤誠, 林文夫編著『経済制度の実証分析と設計』全 3 巻, 第 2 巻『金融の機能不全』, 187-222 頁, 2007 年 1 月, 勁草書房。
- * "Earthquake risks and housing rents: Evidence from the Tokyo metropolitan area," Masayuki Nakagawa, Makoto Saito and Hisaki Yamaga, *Regional Science and Urban Economics* 37-1 (2007), pp. 87-99.
- "Forward discount puzzle and official interventions: An empirical note," Yuichi Fukuta and Makoto Saito, *Osaka Economic Papers* 57:2 (2007), pp. 25-35.
- * 「交通社会資本の危機管理とリスク・マネジメント」, 齊藤誠, 『国際交通安全学会誌』32:2, 2007 年, 134-139 頁。
- * "Earthquake risks and land prices: Evidence from the Tokyo metropolitan area," Masayuki Nakagawa, Makoto Saito and Hisaki Yamaga, forthcoming in *Japanese Economic Review*.
- * 「家計消費と設備投資の代替性について: 最近の日本経済の資本蓄積を踏まえて」, 齊藤誠, 『現代経済学の潮流 2008』, 27-68 頁, 2008 年 8 月, 東洋経済新報社。
- * "Risk premiums versus waiting-options premiums: A simple numerical example," Kenji Miyazaki and Makoto Saito, *The B. E. Journal of Theoretical Economics* 9: 1 (2009) Article 7.
- * "Incomplete financial markets, irreversibility of investment, and fiscal and monetary policy instruments," Kenji Miyazaki, Kiyohiko G. Nishimura, and Makoto Saito, forthcoming in *Japanese Economic Review*.
- * "On the intergenerational sharing of cohort-specific shocks on permanent income," Kenji Miyazaki, Makoto Saito and Tomoaki Yamada, forthcoming in *Macroeconomic Dynamics*.
- "On empirical implications of highly interest-elastic money demand: A Note," Kiyotaka Nakashima and Makoto Saito, forthcoming in *Hitotsubashi Journal of Economics*.

(c) 翻訳

- 『新地平のマクロ経済学: ケインズとシュンペーターの再考』, ピーター・ホーイット著, 岡村宗二, 北村宏隆, 齊藤誠 編訳, 1996 年 1 月, 勁草書房。
- 『環境リスク管理: 市場性と保険可能性』, 齊藤誠, 堀之内美樹訳, 2001 年 7 月, 勁草書房。

(d) その他

- 「道路施設の自然災害リスクマネジメント」, 齊藤誠, 『道路施設の災害リスクファイナンスに関する研究 2』(財団法人道路経済研究所), 2004 年 7 月。
- 「小額決済媒体に対する需要と電子マネーの可能性」, 齊藤誠, 金融調査研究会『電子マネーの発展と金融・経済システム』, 39-50 頁, 2005 年 7 月。
- "A comment: Stock market liquidity and the macroeconomy by Woon Gyu Choi and David Cook," Makoto Saito, in Takatoshi Ito and Andrew K. Rose, eds., *Monetary Policy with Very Low Inflation in the Pacific Rim*, pp. 339-340, 2006, Chicago: The University of Chicago Press.
- "A reply to Ogawa's comment," Keiichi Hori, Makoto Saito and Koichi Ando, *Japanese Economic Review* 57: 2

(2006), pp. 310–311.

RIEB 政策研究ワークショップ「量的緩和政策の効果」(2007 年 1 月 13 日)に対するコメント, RIEB リエゾンセンター・モノグラフに所収。

「経済理論の社会的定着における中級教科書の役割: 拙著『新しいマクロ経済学』に対する書評に接して」, 齊藤誠, 『証券アナリストジャーナル』2007 年第 45 巻第 4 号。

「人口高齢化と資産価格: 最近の理論研究と実証研究の動向について」, 齊藤誠, 『証券アナリストジャーナル』2008 年 10 月号。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

2004 年度日本経済学会, 2004 年 9 月 26 日, “On Possibilities of Macroeconomic Policies When Financial Markets Are Not Sufficiently Working,” by Kenji Miyazaki, Kiyohiko G. Nishimura and Makoto Saito を報告。

第 6 回 CIRJE-TCER マクロコンファレンス, 2004 年 12 月 11 日, “What caused fixed investment to stagnate during the 1990s in Japan?: Evidence from panel data of listed companies,” by Keiichi Hori, Makoto Saito and Koichi Ando を報告。

2005 年度日本経済学会, 2005 年 9 月 17 日, “Forward discount puzzle and official interventions: An empirical note,” Yuichi Fukuta and Makoto Saito を報告。

Research on Money and Markets, Toronto University, October 1, 2005, “A portfolio theory of international capital flows,” Michael B. Devereux and Makoto Saito を報告。

第 7 回 CIRJE-TCER マクロコンファレンス, 2005 年 11 月 26 日, “On the intergenerational and intertemporal sharing of cohort-specific shocks,” Kenji Miyazaki, Makoto Saito and Tomoaki Yamada を報告。

2006 Asia-Pacific Economic Association Annual Conference, University of Washington, July 30, 2006, “A two country model with country specific catastrophic shocks in the presence of solvency constraints,” Makoto Saito, Shiba Suzuki and Tomoaki Yamada を報告。

第 8 回 CIRJE-TCER マクロコンファレンス, 2007 年 2 月 3 日, Credit spreads on corporate bonds and the macroeconomy in Japan, Kiyotaka Nakashima and Makoto Saito を報告。

2007 年度日本経済学会春季大会, 2007 年 6 月 2 日, Credit spreads on corporate bonds and the macroeconomy in Japan, Kiyotaka Nakashima and Makoto Saito を報告。

2007 年度日本ファイナンス学会, 2007 年 6 月 16 日, Credit spreads on corporate bonds and the macroeconomy in Japan, Kiyotaka Nakashima and Makoto Saito を報告。

2007 年度日本経済学会秋季大会, 2007 年 9 月 24 日, 日本経済学会石川賞受賞講演, 「家計消費と設備投資の代替性について: 最近の日本経済の資本蓄積を踏まえて」を講演。

東京大学金融教育研究センター・日本銀行調査統計局第二回共催コンファレンス, 90 年代の長期低迷は我々に何をもたらしたか: 浮かび上がった日本経済の課題・新たに生じた課題, 2007 年 11 月 27 日, 「企業の流動性資産保有と投資の決定要因について: 上場企業の財務データを用いたパネル分析」, 堀敬一, 安藤浩一と共著を報告。

(b) 国内研究プロジェクト

特定領域研究(B)「家計行動の実証分析に基づいた経済システムの評価」(研究代表者・チャールズ・ホリオカ大阪大学教授), 2001 年度 - 2005 年度。

科学研究費基盤研究 C, 「自然災害リスクに対する危険回避行動と地価形成:理論と水害による実証」(研究代表者・齊藤誠), 2005年度 - 2006年度。

21 世紀 COE プログラム「現代経済システムの規範的評価と社会的選択」(研究代表者・鈴木興太郎一橋大学教授), 2003 年度 - 2007 年度。

内閣府国際共同プロジェクト「マクロ経済パフォーマンスとしての資産価格」(研究代表者・齊藤誠), 2004 年度 - 2005 年度。

科学研究費基盤研究 C, 「双方向の国際資金循環の決定メカニズムについて」(研究代表者・齊藤誠), 2007 年度 - 2010 年度。

近未来の課題解決を目指した実証的社会科学研究推進事業, 「高質の住宅ストックを生み出し支える社会システムの設計」(研究代表者・齊藤誠), 2008 年度 - 2012 年度

(d) 研究集会オーガナイズ

第 1 回冬季マクロ経済学研究会, 2009 年 2 月 27 日 - 3 月 1 日, IPC 生産性国際交流センター。

C. 受賞

2001 年, 齊藤誠著『金融技術の考え方・使い方:リスクと流動性の経済学』にて, 第 44 回日経・経済図書文化賞受賞。

2002 年, 分担執筆, 岩本康志編著『社会福祉と家族の経済学』にて, 第 3 回 NIRA 大来政策研究賞受賞。

2005 年, 分担執筆, 西村清彦編著『不動産市場の経済分析:情報・税制・都市計画と地価』にて, 平成 16 年度不動産学会学会著作賞(学術部門)受賞。

2007 年, 日本経済学会・石川賞受賞。

2008 年, 齊藤誠著『資産価格とマクロ経済』にて, 第 48 回毎日新聞社エコノミスト賞受賞。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

印刷委員, 2006 年 4 月 - 2008 年 3 月まで

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

ブリティッシュコロンビア大学経済学部 客員教授(2005 年 1 月 - 7 月)

東京大学公共政策大学院 客員教授(2006 年 10 月より)

(b) 所属学会および学術活動

東京経済研究センター理事(会計担当), 2002 年 5 月 - 2004 年 4 月。

日本経済学会(理論計量経済学会), 理事 2002 年 - 2005 年。常任理事 2005 年 - 2008 年。

日本ファイナンス学会, 理事 2004 年 - 2006 年。

金融学会

カナダ経済学会

(c) 公開講座, 開放講座

東京大学公共政策大学院・損保ジャパン寄附講座「リスクマネジメントと公共政策」, 第1回公開フォーラム, 2007年2月13日, 「民間のリスクマネジメントをサポートする公的な枠組みについて」を基調講演。

第29回内閣府経済社会総合研究所経済政策フォーラム「災害被害を軽減するために必要なこと: リスクを知り, 備え, 長続きさせる社会に向けて」, 2007年2月27日, パネリストとして参加。

東京大学公共政策大学院・損保ジャパン寄附講座「リスクマネジメントと公共政策」, 第2回公開フォーラム, 2008年2月29日, 「土地と地盤のリスクと不動産取引」を基調講演。

一橋大学グローバルCOEプログラム「金融危機に関する公開討論会」, 2008年11月19日一橋大学兼松講堂にて, パネリストとして参加。

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

「独立行政法人評価委員会農林漁業信用基金分科会委員」(2003年4月 - 2008年3月)

「政策金融評価検討委員会」(日本政策投資銀行)(2003年6月 - 2008年8月)

「社団法人日本証券アナリスト協会試験委員会試験委員」(2004年11月 - 2010年10月)

「高度人材受入推進会議構成員」(内閣府)(2008年8月 - 2009年3月)

9. 一般的言論活動

「対論 銀行への新たな税金投入」, 川本裕子氏との対談, 朝日新聞『対論』2004年5月14日朝刊。

週刊東洋経済『経済を見る眼』, 2004年7月より担当。

「政府も企業も家計も災害リスク管理にお金をかけよ」『中央公論』2006年6月号。

「市場経済と国民経済の緊張関係」『創文』2006年8月。

「経済理論の社会的定着における中級教科書の役割: 拙著『新しいマクロ経済学』に対する書評に接して」『証券アナリストジャーナル』2007年第45巻第4号。

「大事なものは成長基盤や成果の配分が公正となる仕組みづくり」言論NPO編『日本の政治を採点する: 2007年参議院選の公約検証』2007年7月。

「望ましい円相場とは?」『あんじゃり』2007年12月号。

「投資対象として見た病院資産」『病院』2008年1月号。

「連続インタビュー 経済学は人を幸せにする方法を教えられるですか?: 経済学は大きな失敗をしないための知恵を授けてくれます」『経済セミナー』2008年1月号。

「企業と社会をとりもつリスクマネジメント」『書斎の窓』2008年4月号 - 2009年3月号連載。

「座談会: サブプライムローン問題発生後の金融・資本市場」, 菅野雅明・齊藤誠・長谷川克之・籠宮信雄, 『ESP』2008年5月号。

「一級の経済学者が描いたアダムスミスの知的格闘」『フォーサイト』2008年6月号。

「複雑化する国際金融に対応する金融政策とは」『エコノミスト』2008年7月8日号。

「金融危機時には中央銀行の準備預金付利が必要: 危機対応のために金融政策を犠牲にしない手段」『金融財政事情』2008年10月27日号。

「金融危機と企業経営: 『強い円』を活かした双方向の資金循環の可能性」『グローバル経営』2008年12月号。